

分野連携・融合領域研究への取り組みについての意見（問 66）の例

<人文社会科学と自然科学の融合の重要性について>

- ・ 大学が社会と関わっていくためには、科学技術に関することでも人文科学と協力する場面が必要だろう。また、文科系の学部は競争化の流れに乗りにくいので、近い将来哲学など人文科学の助けを必要とする時がきたら、その分野の研究者がいなくなってしまう可能性がある。もっと早い段階から、知的交流に努めるのが望ましい。(大学, 所長・部室長クラス, 男性)
- ・ 科学技術に関する国家プロジェクトは、同一分野の専門家集団で提案し実行しているケースが大半である。また大学においても「文理融合」を標榜し新たな学科や研究科を設立し試行しているが、必ずしも融合は進んでいない。地球温暖化問題やエネルギー問題など社会科学的な課題の側面が無視できなくなりつつある現在、より国が先導する形で融合を促進すべきである。(民間企業, 所長・部室長クラス, 男性)

<分野連携・融合領域研究の推進方法について>

- ・ 大学の学部体制は分野融合に敵対的である。今後の発展を考えると、学部運営体制は少なくとも研究面では解体すべきである。そのような大学も出始めていると思うが。(大学, 所長・部室長クラス, 男性)
- ・ 研究コミュニティー間の分野を超えた交流が乏しく、コミュニケーションギャップを乗り越えるために多大な努力が必要。また、研究者個人レベルでは分野横断的な視野で熱心に取り組んでいる人がいるが、組織として支援する体制は不十分である。大学入試や専門課程への進学振り分けの段階から、理系と文系の垣根を低くするなど、将来、分野融合や流動化の視点を持った研究者となる人材の育成が必要。(公的研究機関, 学長等クラス, 男性)

<異分野間のコミュニケーションの難しさについて>

- ・ この様な総合が進展するには文化の異なる研究者間の不断の接触、問題意識の共有化等、一種のスリ合わせが大事だが、有能な教員程益々多忙になっている大学の中でこの様な活動を維持して行く事は非常に難しい。(大学, 所長・部室長クラス, 男性)
- ・ 人文、社会科学は、工学と価値を異にするものであり、統合すべきでない。必要性やその可能性をうたうのであれば、まず民間等で実績を示すべきであり、その真価もわからない段階でいたずらに教育機関において実施し、学生、若手の将来に影響を与えるべきではないと考える。(民間企業, 主任・研究員クラス, 男性)
- ・ 融合に関して、総論賛成、各論反対が多過ぎる。議論はあるが具体化されていない。(民間企業, 所長・部室長クラス, 男性)